

尺度使用マニュアル

<尺度名>

日本語版 Trypophobia Questionnaire (TQ-J)

<測定概念>

円形や物体の集合体 (例：蓮の花托，蜂の巣) を観察することで生じる不快感や嫌悪をトライポフォビアという。Cole & Wilkins (2013) は成人の約 16%がトライポフォビアを呈すると報告しており，その個人差が示唆されていた。そこで Le, Cole, & Wilkins (2015) はトライポフォビアの生じやすさを測る Trypophobia Questionnaire (TQ) を開発した。TQ の邦訳であり，TQ と同様の一因子構造を有し，信頼性と妥当性が確認されているのが本尺度 TQ-J である。

<適用範囲>

18 歳以上の男女を含む一般的集団に適用されることを想定して作成された尺度である。18 歳未満への適用は未検討であり，その妥当性等は保証されない。ウェブサイトや紙媒体での調査への適用を想定している。

<尺度構成手続き>

筆者らが TQ を邦訳し，職業翻訳家が逆翻訳し，原著者が逆翻訳版と原版の整合を確認して本尺度は作成された。

TQ と同様に 19 項目からなり，うち 2 項目はダミー項目として分析から除外される。5 件法で回答され，尺度得点のとりうる範囲は 17–85 点である。

ウェブ上から参加した 315 名 (女性 110 名，39.37±9.37 歳) が回答すると尺度得点は平均 28.35 ($SD = 10.41$) となった。最尤法による探索的因子分析の結果，第 1 因子の固有値は 9.37 (説明率 55.12%)，第 2 因子は 0.88 (5.19%) であった。第 1，第 2 因子の固有値の顕著な差から，一因子構造であると解釈された。因子負荷量は .48–.83 であり 17 項目すべてが採用された。

<信頼性>

Cronbach の α 係数は .95 であり高い内的整合性が確認された。上述の 315 名のうち 127 名が参加した，2 週間をあけた再検査法により，安定性も確認された (Pearson's $r = .77, p < .001$)。

<妥当性>

上述の 315 名を対象として，収束的妥当性の確認のために，トライポフォビア喚起画像に対する不快感評定実験が行われた。弁別的妥当性の確認のために，トライポフォビアを喚起しないと想定された中性画像・不快情景画像に対する不快感評定実験が行われ，トライポフォビア傾向と関連しにくいと想定された特性不安が State Trait Anxiety Inventory (STAI: Spielberger, Gorsuch, & Lushene, 1970; 清水・今栄，1981) によって測定された。

その結果，本尺度がトライポフォビア喚起画像の不快感評定値と強く相関したことから ($r =$

-0.61, $p < .001$), 収束的妥当性が確認された。他方で, 中性画像の評定値とは相関せず ($r = .07, p = .21$), 不快情景画像の評定値とは相関が弱く ($r = -.31, p < .001$), STAI との相関も弱かったことから ($r = .26, p < .001$), 弁別的妥当性も確認された。

<採点方法>

各項目は「まったく感じない (1 点)」「わずかに感じる (2 点)」「やや感じる (3 点)」「かなり感じる (4 点)」「極めて強く感じる (5 点)」の 5 件法で回答される。ダミー項目「笑い飛ばしたくなる」「心が落ち着く」を除いた 17 項目の合計点が尺度得点となる。

<尺度の使用について>

改版の開発を目的とする場合を除けば, 質問項目の改変や増減は認められない。

原著者によると, 可能であれば項目順をランダム化することが望ましいが (例: ウェブ調査), 紙媒体による調査等でランダム化が難しい場合には項目順を固定してかまわない。

所定の画像 2 点 (蓮の花托, 蜂の巣) の例示が使用手続きに含まれるが, これはトライポフォビア喚起画像がどのようなものであるかを示すためのものであり, 必ずしも回答者に画像の観察を要求するものではない。

<解釈方法>

尺度得点が高いほどトライポフォビアが生じる傾向が強いと解釈される。

TQ ではカットオフ値 (31 点) が報告されているが, 本尺度については未検討であるため, このカットオフ値を用いて検討に利用した場合の妥当性等は保証されない。

<出典文献>

今泉修・古野真菜実・日比野治雄・小山慎一 (2016). 日本語版 Trypophobia Questionnaire (TQ-J) の作成 パーソナリティ研究, 25, 171–173.

<連絡先>

今泉 修 (東京大学大学院総合文化研究科), Email: shuimaizumi@gmail.com

<無料・有料の別>

無料

<著作権関連情報>

研究・教育目的であれば, 出典を明記しさえすれば本尺度を自由に使用してかまわない。それ以外の目的であれば事前に連絡先まで問い合わせ願いたい。

本尺度は TQ と同様の所定の画像 2 点を含むが, 著作権の都合上これらを公開できない。本尺度を使用する際は, 使用者が別添ファイルに記載の URL から画像を取得し, 用紙に貼付する。画像著作権は画像作成者に帰属され, 使用者による転載・公開・営利目的利用は認められない。